(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号

特開2016-106665
(P2016-106665A)
(43)公開日　平成28年6月20日(2016.6.20)

(51)Int.Cl.			FI				テーマコード（参考）
A47G	*9/02*	*(2006.01)*	Ａ４７Ｇ	9/02		Ａ	３Ｂ１０２
			Ａ４７Ｇ	9/02		Ｚ	
			Ａ４７Ｇ	9/02		Ｔ	

審査請求 未請求　請求項の数 7　ＯＬ　（全 14 頁）

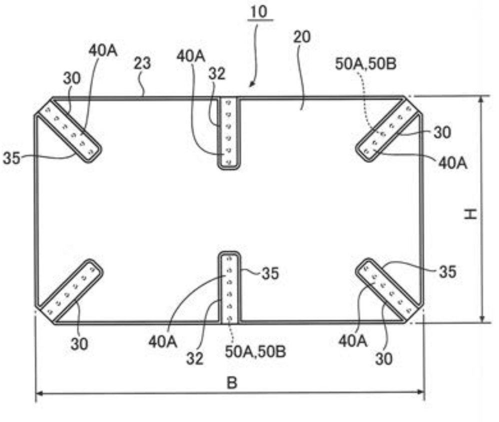
(21)出願番号　特願2014-243872 (P2014-243872)
(22)出願日　平成26年12月2日 (2014.12.2)

(71)出願人　503247791
アクトインテリア株式会社
広島県廿日市市宮内字高通４２９１番地の１
(71)出願人　391030815
株式会社かめお
福岡県久留米市東合川２－４－７
(74)代理人　100086689
弁理士　松井　茂
(74)代理人　100157772
弁理士　宮尾　武孝
(72)発明者　梯　智樹
福岡県久留米市東合川２－４－７　株式会社かめお内

Fターム(参考) 3B102 BA00

(54)【発明の名称】多機能寝具

(57)【要約】　（修正有）
【課題】保温性が高く、スリットから手足や頭を容易に出して、体を包んだり膝掛けのように利用できる多機能寝具を提供する。
【解決手段】この多機能寝具１０は、毛布及び／又は布団をなす本体部２０と、本体部２０の外周の少なくとも４箇所から内方に向けて伸びる３～１５ｃｍの幅のスリット３０，３２と、その両側辺にそれぞれ一辺を縫着され、本体部２０に対して開閉可能で、互いに重なり合った状態でスリットを覆う一対のフラップ４０Ａと、一対のフラップ４０Ａの互いに重なり合う面に設けられ、フラップどうしを着脱可能に接続する連結手段とを備え、連結手段は、スリット３０，３２の長さ方向に沿って所定間隔で複数設けられ、異なるスリットに設けられたフラップどうしも接続できる構造とされている。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
毛布及び／又は布団として使用可能なシート状の本体部と、
該本体部の外周の少なくとも４箇所から内方に向けて所定長さで形成された３～１５ｃｍの幅のスリットと、
該スリットの両側辺にそれぞれ一辺を縫着されて、前記本体部に対して開閉可能に取付けられ、互いに重なり合った状態で前記スリットを覆う一対のフラップと、
前記一対のフラップの互いに重なり合う面に設けられた、前記フラップどうしを着脱可能に接続する連結手段とを備え、
前記連結手段は、前記スリットの長さ方向に沿って所定間隔で複数設けられ、異なるスリットに設けられたフラップどうしも接続できる構造とされていることを特徴とする多機能寝具。
【請求項２】
前記スリットは、前記本体部の外周の５箇所以上から内方に向けて所定長さで設けられている請求項１記載の多機能寝具。
【請求項３】
前記本体部は、長方形又は長方形の角部を直線状又は円弧状に切り取った形状をなし、前記スリットは、４つの各角部から対角線方向に沿って斜めに延出するように形成された４つのスリットと、長辺方向に沿った両側辺の対向する位置から、該長辺に対してほぼ直角な方向に延出するように形成された少なくとも一対のスリットとを含んでいる請求項１又は２記載の多機能寝具。
【請求項４】
前記本体部は、円形又は楕円形をなし、前記スリットは、前記本体部の外周の少なくとも４箇所から内方に延出するように形成されている請求項１又は２記載の多機能寝具。
【請求項５】
前記スリットの長さは、５０～９０ｃｍとされている請求項１～４のいずれか１つに記載の多機能寝具。
【請求項６】
前記連結手段は、前記フラップの互いに重なり合う面に、外側には露出しないように設けられたホックからなる請求項１～５のいずれか１つに記載の多機能寝具。
【請求項７】
前記ホックは、所定長さのテープに所定間隔で取付けられ、前記フラップの互いに重なり合う面に、前記テープを縫着することによって取付けられている請求項６記載の多機能寝具。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、保温性の高い寝具機能を有しており、例えば、寝袋のように体を包んだり、ソファー等に腰掛けて、ひざや肩回り等を包んだりして、利用することができる、多機能寝具に関する。
【背景技術】
【０００２】
就寝する際には、敷き布団や掛け布団、毛布等の寝具が用いられている。この中でも、掛け布団や毛布等は、身体の上に被せて利用されている。しかし、上半身を起こすと、掛け布団と敷き布団とは分離しているので、上半身がむき出しになり冷える。そこで、掛け布団や毛布等を被って体を暖めながら、本を読んだりテレビ等を見たりしたいという要望があった。このような場合、掛け布団や毛布等から、手足が出せると便利である。
【０００３】
このような寝具として、例えば、下記特許文献１には、充填材と表面シートとを含む保温シートであって、シート中央部に長さが２５～６０ｃｍのスリット状開口部を設けた、

衣料としても使用可能な寝具が記載されている。また、スリット状開口部は、カバー部により覆われている。

【０００４】

そして、この寝具では、スリット状開口部から、頭を出して用いることができ、また、両手や両足をシート側辺から出すこともでき（図３参照）、暖を取りながら、本を読んだりテレビ等を見たりすることが可能となっている。

【０００５】

また、下記特許文献２には、こたつ用の敷物が記載されている。このホームコタツ用敷物は、ホットカーペット上に敷かれるものであって、略四角形状をなしており、各角部から敷物中央に向けて切欠長溝が形成されると共に、該切欠長溝の先端に、ホームコタツの４本の脚端が嵌入される嵌入切欠穴が形成されている。そして、このホームコタツ用布団では、隣接する一対の切欠長溝の間の部分を、身体に掛けることが可能で、こたつ布団なしで暖を取れるようになっている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００６】

【特許文献１】実用新案登録第３１６４９９３号公報

【特許文献２】特開２００２－７１１４５号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００７】

上記特許文献１に記載の寝具においては、シート中央に設けたスリット状開口部から頭を出すことができる。しかしながら、両手や両足は、単にシート側辺から出すのみで、特に工夫はない。そのため、利用者の体が大きい場合には、手足がシート側辺から大きくはみだして冷えやすくなり、一方、利用者の体が小さい場合には、手足がシート側辺から出にくくなって、自由な動きがしにくくなるという不都合があった。

【０００８】

また、上記特許文献２に記載のホームコタツ用敷物は、その名の通り、あくまでコタツ用の敷物であって、コタツやぐらを載せること前提しており、毛布や布団として利用するには適しておらず、また、体に巻き付けたり、切欠長溝から手足を出したりすることは、何ら意図していない。更に、切欠長溝の幅は小さいので、ここから手足や頭を出したりしにくい構造となっている。

【０００９】

したがって、本発明の目的は、スリットから手足や頭を容易に出して、寝袋のように体を包んだり、ソファー等に腰掛けて、ひざや肩回り等を包んだり、ベッドやこたつに掛けて利用することができる、多機能寝具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【００１０】

上記目的を達成するため、本発明の多機能寝具は、毛布及び／又は布団として使用可能なシート状の本体部と、該本体部の外周の少なくとも４箇所から内方に向けて所定長さで形成された３～１５ｃｍの幅のスリットと、該スリットの両側辺にそれぞれ一辺を縫着されて、前記本体部に対して開閉可能に取付けられ、互いに重なり合った状態で前記スリットを覆う一対のフラップと、前記一対のフラップの互いに重なり合う面に設けられた、前記フラップどうしを着脱可能に接続する連結手段とを備え、前記連結手段は、前記スリットの長さ方向に沿って所定間隔で複数設けられ、異なるスリットに設けられたフラップどうしも接続できる構造とされていることを特徴とする。

【００１１】

本発明によれば、スリットの両側辺に設けられたフラップを連結手段によって連結したり、離したりすることができ、しかもスリットは３～１５ｃｍの比較的広い幅を有しているので、該スリットから手足や頭を出して、本体部を体に巻き付けることができる。

【００１２】
　また、連結手段は、スリットの長さ方向に沿って所定間隔で複数設けられ、異なるスリットに設けられたフラップどうしを連結手段によって連結することができるようになっているので、巻き付けた状態でフラップどうしを連結して保持させたり、連結手段の間から手足や頭を出すことができる。
【００１３】
　したがって、畳や床やソファーの上に仰向けになって寝袋のように体を包んで利用したり、ソファーに腰掛けて、足下やひざや肩の周りなどを包んで利用することができる。更には、本体部を体に巻き付けてスリットから手足や頭を出して、フラップどうしを連結して巻付け状態を保持させることにより、体に巻き付けた状態で、読書や筆記をしたり、パソコンを操作したり、部屋の中で歩くこともできる。
【００１４】
　また、丸めてフラップどうしを連結し、丸めた状態を保持させることにより、まくらやクッションとしても利用することができる。
【００１５】
　更に、必要箇所のスリットのフラップどうしを連結して広げ、ベッドやこたつ布団、ソファー等に被せることによって、フラップで連結されたスリットの部分で柔軟に曲がって、ベッドやこたつ、ソファー等の形状になじみ、ベッドカバーやこたつカバー、ソファーカバー等として利用することもできる。
【００１６】
　本発明の多機能寝具においては、前記スリットは、前記本体部の外周の５箇所以上から内方に向けて所定長さで設けられていることが好ましい。
【００１７】
　上記態様によれば、スリットを本体部の外周の５箇所以上に設けることにより、いろいろな巻付け態様で、頭、手足を出しやすくすることができる。
【００１８】
　本発明の多機能寝具においては、前記本体部は、長方形又は長方形の角部を直線状又は円弧状に切り取った形状をなし、前記スリットは、４つの各角部から対角線方向に沿って斜めに延出するように形成された４つのスリットと、長辺方向に沿った両側辺の対向する位置から、該長辺に対してほぼ直角な方向に延出するように形成された少なくとも一対のスリットとを含んでいることが好ましい。
【００１９】
　上記態様によれば、長方形状をなすことにより、体の長手方向に沿って巻付け易くすることができ、４つの角部と、長辺方向に沿った両側辺に設けられた、少なくとも６つのスリットによって、いろいろな巻付け態様で、頭、手足を出しやすくすることができる。また、本体部を長くすることによって、複数の人の体を包むようにして利用することも可能となる。
【００２０】
　本発明の多機能寝具においては、前記本体部は、円形又は楕円形をなし、前記スリットは、前記本体部の外周の少なくとも４箇所から内方に延出するように形成されていることが好ましい。
【００２１】
　上記態様によれば、円形又は楕円形をなすことにより、体に巻き付けたときに、胴体部分を特に厚く巻き付けることができ、頭や手足を出しやすくすることができる。
【００２２】
　本発明の多機能寝具においては、前記スリットの長さは、５０～９０ｃｍとされていることが好ましい。
【００２３】
　上記態様によれば、体型に関係なく身体を包み込んで固定することができ、汎用性を高めることができる。

【００２４】
本発明の多機能寝具においては、前記連結手段は、前記フラップの互いに重なり合う面に、外側には露出しないように設けられたホックからなることが好ましい。
【００２５】
上記態様によれば、連結手段が、フラップの互いに重なり合う面に設けられたホックからなるので、フラップどうしを連結手段によって連結した状態で、ホックが体に触れることがなく、連結手段の冷たさや硬さなどの違和感を軽減できる。
【００２６】
本発明の多機能寝具においては、前記ホックは、所定長さのテープに所定間隔で取付けられ、前記フラップの互いに重なり合う面に、前記テープを縫着することによって取付けられていることが好ましい。
【００２７】
上記態様によれば、ホックの取付作業性が向上すると共に、テープによってホックの取付面が補強されるので、耐久性を高めることができる。
【発明の効果】
【００２８】
本発明によれば、スリット両側のフラップを連結手段で連結したり離したりすることができ、しかもスリットは３～１５ｃｍの比較的広い幅を有しているので、該スリットから手足や頭を出して、本体部を体に巻き付けることができ、例えば、寝袋のように体を包んで利用したり、ソファーに腰掛けて、足下やひざや肩の周りなどを包んで利用したり、体に巻き付けた状態で読書や筆記をしたりパソコンを操作したり、部屋の中で歩くこともでき、様々な用途に用いることができる。
【図面の簡単な説明】
【００２９】
【図１】本発明に係る多機能寝具の、第１実施形態の平面図である。
【図２】同多機能寝具の底面図である。
【図３】同多機能寝具の要部拡大分解斜視図である。
【図４】同多機能寝具を平面側から見た場合であって、一方のフラップを少しめくった状態を示す説明図である。
【図５】同多機能寝具において、一対のフラップが接続された状態の、断面図である。
【図６】同多機能寝具の使用方法の一例を示す説明図である。
【図７】同多機能寝具の使用方法の一例を示す説明図である。
【図８】同多機能寝具の使用方法の一例を示す説明図である。
【図９】同多機能寝具の使用方法の一例を示す説明図である。
【図１０】同多機能寝具の使用方法の一例を示す説明図である。
【図１１】同多機能寝具の使用方法の一例を示す説明図である。
【図１２】本発明に係る多機能寝具の、第２実施形態の平面図である。
【図１３】本発明に係る多機能寝具の、第３実施形態の平面図である。
【図１４】本発明に係る多機能寝具の、第４実施形態の平面図である。
【発明を実施するための形態】
【００３０】
以下、図１～１１を参照して、本発明に係る多機能寝具の、第１実施形態について説明する。
【００３１】
図１は、多機能寝具の平面図であって、多機能寝具の表面側が示されている。一方、図２は、多機能寝具の底面図であって、多機能寝具の裏面側が示されていると共に、後述する一対のフラップ４０Ａ，４０Ｂを、多機能寝具の裏面側に接するようにめくって、後述のスリット３２を開いた状態の拡大図が示されている。以下、「表面」という場合には、図１に示すように、多機能寝具の平面側から見た面を意味し、「裏面」という場合には、図２に示すように、多機能寝具の底面側から見た面を意味する。

【００３２】
図１及び図２に示すように、この実施形態における多機能寝具１０は、毛布及び／又は布団として使用可能なシート状の本体部２０を有している。図３に示すように、この実施形態の本体部２０は、一対の生地２１，２１と、それらの間に充填される図示しない綿等からなるクッション材とから構成されており、布団や毛布として使用可能なものである。また、一対の生地２１，２１が重なり合った縁部には、縁取り部材２３が被せられて縫着され、一対の生地２１，２１の縁部が互いに接合されている（図１及び図３参照）。なお、縁取り部材２３は、外観上の見栄えをよくしたり、縁取り部の補強をしたりするためのものであるが、縁取り部材２３を用いずに、生地２１，２１の縁部どうしを縫合するだけであってもよい。また、本体部２０にキルティング加工を施してよい。なお、本体部２０としては、羊毛やアクリル繊維等を織ったり編んだりして、起毛等の処理を施してなる毛布状のものとしてもよく、特に限定はされない。
【００３３】
また、図１及び図２に示すように、この実施形態における本体部２０は、一方向に長く伸びた長方形状をなしており、その４つの角部を斜めに直線状に切り取った（いわゆる面取り）形状をなしている。なお、本体部２０としては、長方形状に限らず、正方形状の角部を面取りした形状であってもよい。また、本体部２０としては、例えば、長方形の角部を円弧状に切り取った形状（図１３参照）や、円形、楕円形（図１４参照）等としてもよく、特に限定はされない。図１３及び図１４に示す本体部の他形状については、他の実施形態として後述する。
【００３４】
図１に示すように、この本体部２０の大きさは、身体の大きさや掛ける物品によっても異なるが、例えば、長辺方向の長さＢは、１７０～３３０ｃｍであることが好ましく、短辺方向の長さＨは、１７０～２３０ｃｍであることが好ましい。なお、本体部２０が正方形の場合は、各辺の長さは、１７０～２３０ｃｍであることが好ましい。
【００３５】
また、図１及び図２に示すように、本体部２０の外周の少なくとも４箇所から、本体部２０の内方に向けて、スリット３０，３２が、所定幅Ｗで且つ所定長さＬで形成されている。なお、このスリットの数は、スリットは少なくとも４個あればよいが、５～１２個であることが好ましく、６～８個であることがより好ましい。
【００３６】
この実施形態の多機能寝具１０においては、図１及び図２に示すように、本体部２０の、４つの各角部から対角線方向に沿って斜めに延出するように形成された４つのスリット３０と、本体部２０の、長辺方向に沿った両側辺であって、その長さ方向ほぼ中央の対向する位置から、該長辺に対してほぼ直角な方向に延出するように形成された一対のスリット３２，３２とを有している。
【００３７】
また、図２に示すように、各スリット３０，３２の幅Ｗは、３～１５ｃｍであることが好ましく、５～１０ｃｍであることがより好ましい。
【００３８】
スリット３０，３２の幅Ｗが、３ｃｍ未満であると、スリットから手足や頭を出しにくくなり、幅Ｗが、１５ｃｍを超えると、本体部２０よりも薄い、後述するフラップ４０Ａ，４０Ｂにより、スリット３０，３２の開口をカバーする範囲が大きくなり、保温性が低下する可能性がある。
【００３９】
更に図２に示すように、各スリット３０，３２の長さＬは、５０～９０ｃｍで形成されていることが好ましく、６０～８０ｃｍで形成されていることがより好ましい。
【００４０】
スリット３０，３２の長さＬが、５０ｃｍ未満であると、体のサイズによっては、手足や頭を出しにくくなり、長さＬが、９０ｃｍを超えると、スリット３０，３２の面積が大

きくなって、保温性が低下する可能性がある。

【００４１】

また、各スリット３０，３２の両側辺には、それぞれ一辺を縫着されて、本体部２０に対して開閉可能に取付けられて、互いに重なり合った状態で、各スリット３０，３２を覆う一対のフラップ４０Ａ，４０Ｂが設けられている。

【００４２】

図１～３に示すように、フラップ４０Ａ，４０Ｂは、各スリット３０，３２の幅Ｗ及び長さＬにほぼ適合した形状をなした、細長い帯状をなしている。そして、図３に示すように、フラップ４０Ａの長手方向の一辺が、スリット３０，３２の一側辺に重ね合わせされると共に、フラップ４０Ｂの長手方向の一辺が、スリット３０，３２の他側辺に重ね合されて、略Ｕ字状をなした縁取り部材３５を介して縫着されて、一対のフラップ４０Ａ，４０Ｂがスリット３０，３２を開閉可能なように取付けられている。

【００４３】

なお、フラップ４０Ａ，４０Ｂをスリット３０，３２に取付けるための構造としては、上記構造に限定されるものではない。例えば、上記縁取り部材３５を用いずに、フラップ４０Ａ，４０Ｂの一辺を、スリット３０，３２の側辺に、直接縫合させてもよい。

【００４４】

そして、この多機能寝具１０には、フラップ４０Ａ，４０Ｂどうしを着脱可能に接続する連結手段が設けられており、更にこの連結手段は、スリット３０，３２の長さ方向に沿って所定間隔で複数設けられ、異なるスリットに設けられたフラップどうしも接続できる構造となっている。

【００４５】

この実施形態の多機能寝具１０は、図３に示すように、フラップ４０Ａ，４０Ｂよりも幅狭で且つ短く形成された、所定長さで伸びるテープ４５，４５を有しており、一方のテープ４５に、複数の雄ホック５０Ａが、所定間隔をあけて複数取付けられており、他方のテープ４５に、複数の雌ホック５０Ｂが、所定間隔をあけて複数取付けられている。

【００４６】

そして、図３に示すように、フラップ４０Ａの裏面側、及び、フラップ４０Ｂの表面側、すなわち、フラップ４０Ａ，４０Ｂの互いに重なり合う面に、雄ホック５０Ａを取付けたテープ４５、及び、雌ホック５０Ｂを取付けたテープ４５が、それぞれ縫着されている。その結果、図３及び図４に示すように、複数の雄ホック５０Ａ及び複数の雌ホック５０Ｂが、フラップ４０Ａ，４０Ｂの互いに重なり合う面に取付けられて、外側には露出しないようになっている。

【００４７】

また、各雄ホック５０Ａは、全て同一形状かつ同一構造となっていると共に、各雌ホック５０Ｂも全て同一形状かつ同一構造となっており、任意の雄ホック５０Ａを、任意の雌ホック５０Ｂに対して接合させたり、取外したりすることが可能となっている。

【００４８】

例えば、図４及び図５に示すように、フラップ４０Ａ，４０Ｂを互いに重ね合わせて、各雄ホック５０Ａを対応する各雌ホック５０Ｂに係合させるようにすれば、フラップ４０Ａ及びフラップ４０Ｂを重ね合わせた状態で接続して、スリット３０，３２を閉じることができる。

【００４９】

また、所定のスリット３０，３２に設けたフラップ４０Ａの、任意の雄ホック５０Ａを、異なるスリット３０，３２に設けたフラップ４０Ｂの、任意の雌ホック５０Ｂに係合させることで、異なるスリットに設けたフラップ４０Ａ及びフラップ４０Ｂどうしを接続することもできる。

【００５０】

以上のように、この実施形態では、上記雄ホック５０Ａ及び雌ホック５０Ｂが、本発明における「連結手段」をなしている。

【００５１】
　また、図２に示すように、隣接する雄ホック５０Ａ，５０Ａ、又は、隣接する雌ホック５０Ｂ，５０Ｂどうしの間隔Ｃは、３～１５ｃｍであることが好ましく、５～８ｃｍであることがより好ましい。更に、１組のフラップ４０Ａ，４０Ｂに対して、雄ホック５０Ａ及び雌ホック５０Ｂは、５～２０対設けることが好ましく、８～１２対設けることがより好ましい。
【００５２】
　なお、連結手段としては、例えば、フラップの一方に取付けたボタンと、フラップの他方に設けた、ボタンが嵌合するボタン穴とから構成されていたり、或いは、フラップの一方に設けられた、フック状に起毛した面ファスナーと、フラップの他方に設けられた、ループ状に起毛した面ファスナーとから構成されていたりしてもよく、特に限定はされない。ただし、フラップどうしを、その長さ方向に所定間隔を設けた状態で、局所的に接続できる構造であることが好ましく、例えば上記のようなホックやボタン等が好ましく、面ファスナーであっても、短冊状等の短いものであればよいが、スライドファスナー等は好ましくない。
【００５３】
　次に、上記構造からなる多機能寝具１０の使用方法及び作用効果について説明する。
【００５４】
　すなわち、この多機能寝具１０は、各スリット３０，３２の両側辺に設けられたフラップ４０Ａ，４０Ｂを、雄ホック５０Ａ又は雌ホック５０Ｂを係脱させることによって、連結したり離したりすることができ、しかも各スリット３０，３２は、３～１５ｃｍの比較的広い幅を有しているので、各スリット３０，３２から手足や頭を出して、本体部２０を体に巻き付けることができる。
【００５５】
　また、連結手段を構成する雄ホック５０Ａ及び雌ホック５０Ｂは、スリット３０，３２の長さ方向に沿って所定間隔で複数設けられており、これらの雄ホック５０Ａ及び雌ホック５０Ｂによって、異なるスリット３０，３２に設けられたフラップ４０Ａ，４０Ｂどうしも接続できる構造とされているので、本体部２０を体に巻き付けた状態で、フラップ４０Ａ，４０Ｂどうしを連結して保持させたり、接合した雄ホック５０Ａ及び雌ホック５０Ｂと、それに隣接する雄ホック５０Ａ及び雌ホック５０Ｂとの間から、手足や頭を出すことができる。
【００５６】
　そのため、この多機能寝具１０を、例えば、図６に示すように、畳や床やソファーの上に仰向けになって、寝袋のように体を包んで利用したり、図７に示すように、ソファー１に腰掛けて、足下やひざ、肩の周りなどを包んだ利用したりすることができる。また、図８に示すように、ソファー１に腰掛けて、肩の周りだけを包んで利用したり、図９に示すように、ソファー１に腰掛けて、足下だけを包んで利用したりすることもでき、この多機能寝具１０は、多種多様な方法で利用することができる。
【００５７】
　また、図１０に示すように、リビング等で家族や友人等と暖を取りたい場合には、畳や床の上に座った複数人の膝や足の上に、多機能寝具１０を掛けることによって、複数人で多機能寝具１０を効率的に利用することができる。なお、複数人で使用する場合には、多機能寝具１０の各辺を、各人の腰に巻いたりして自由に使用することができ、また、巻いた部分を雄ホック５０Ａや雌ホック５０Ｂで止めて、巻いた状態に保持することもできる。
【００５８】
　更に、特に図示はしないが、多機能寝具１０の本体部２０を、体に巻き付けてスリット３０，３２から手足や頭を出して、フラップ４０Ａ，４０Ｂどうしを、雄ホック５０Ａと雌ホック５０Ｂとで連結して巻付け状態を保持させることにより、体に巻き付けた状態で、読書や筆記をしたり、パソコンを操作したり、部屋の中で歩くこともできる。

【００５９】
また、図１１に示すように、多機能寝具１０を丸めて、フラップ４０Ａ，４０Ｂどうしを、雄ホック５０Ａ及び雌ホック５０Ｂで連結し、丸めた状態を保持させせることにより、まくらやクッション等としても利用することができる。更に、このように丸めた状態に保持することができるので、収納にも便利である。
【００６０】
また、多機能寝具１０の必要箇所のスリット３０，３２の、フラップ４０Ａ，４０Ｂどうしを、雄ホック５０Ａ及び雌ホック５０Ｂで連結して広げ、ベッドやこたつ布団、ソファー等に被せることによって、フラップ４０Ａ，４０Ｂで連結されたスリット３０，３２の部分で柔軟に曲がって、ベッドやこたつ、ソファー等の形状になじむので、ベッドカバーやこたつカバー、ソファーカバー等として利用することもできる。
【００６１】
ところで、ベッドで眠るときは、通常、掛け布団と敷き布団とが分離しているので、上掛け布団がベッドからずれ落ちることがあり、快眠できないことがある。また、リビングのソファーで横たわるときにも、毛布や掛け布団を掛けたら、ベッドよりも、毛布や掛け布団が落ちやすい。
【００６２】
これに対して、この多機能寝具１０においては、毛布や掛け布団の身体の上に掛ける部分と、敷き布団等の身体の下に配置される部分とが、一体化した構造をなしているので、ソファー１にカバーとして掛けた状態や、ベッドに敷いた状態から、容易に身体に巻きつかせてくるまることができると共に、ソファーやベッド等からずれ落ちることを防止でき、安眠を提供することができる。
【００６３】
また、ベッドや畳の上で使う一般寝具においても、リビング等で使う寝具としても、保温性が高く、一枚で十分な多機能寝具を提供することができる。
【００６４】
更に、この実施形態では、本体部２０の外周から６個のスリット３０，３２が設けられているが、このように、スリットが、本体部２０の外周の５箇所以上から内方に向けて所定長さで設けられている場合には、それらのスリットから、いろいろな巻付け態様で、頭や手足を出しやすくすることができる。
【００６５】
また、この実施形態においては、図１及び図２に示すように、本体部２０は角部を面取りした長方形状をなしているので、体の長手方向に沿って巻付け易くすることができ、また、本体部２０を長くすることによって、複数の人の体を包むようにして利用することも可能となる。それに加えて、本体部２０には、４つの角部にそれぞれも設けたスリット３０と、長辺方向に沿った両側辺に設けられた一対のスリット３２，３２の、少なくとも６つのスリット３０，３２を有しているので、いろいろな巻付け態様で、スリット３０，３２から、頭や手足を出しやすくすることができる。
【００６６】
更に、スリット３０，３２の長さＬ（図２参照）が、５０～９０ｃｍとされている場合には、体型に関係なく身体を包み込んで固定することができ、汎用性を高めることができる。
【００６７】
また、この実施形態における連結手段は、図２～４に示すように、フラップ４０Ａ，４０Ｂの互いに重なり合う面に設けられた、雄ホック５０Ａ及び雌ホック５０Ｂからなるので、フラップ４０Ａ，４０Ｂどうしを雄ホック５０Ａ及び雌ホック５０Ｂによって連結した状態で、両ホック５０Ａ，５０Ｂが体に触れることがなく、連結手段の冷たさや硬さなどの違和感を軽減できる。
【００６８】
更に、図２～４に示すように、雄ホック５０Ａ及び雌ホック５０Ｂは、所定長さのテー

プ４５に所定間隔で取付けられており、フラップ４０Ａ，４０Ｂの互いに重なり合う面に、テープ４５を縫着することによって取付けられているので、雄ホック５０Ａ及び雌ホック５０Ｂの取付作業性が向上すると共に、テープ４５によって、フラップ４０Ａ，４０Ｂの、雄ホック５０Ａや雌ホック５０Ｂの取付面が補強されるので、耐久性を高めることができる。

【００６９】

図１２には、本発明に係る多機能寝具の、第２実施形態が示されている。なお、前記実施形態と実質的に同一部分には同符号を付してその説明を省略する。

【００７０】

図１２に示すように、この実施形態の多機能寝具１０Ａは、長方形の本体部２０の、４つの角部が円弧状に切り取った形状をなしていると共に、４つの各角部からスリット３０がそれぞれ形成され、かつ、本体部２０の、長辺方向に沿った両側辺の対向する位置から、一対のスリット３２，３２が、長辺に対してほぼ直角な方向にそれぞれ形成されており、合計で８つのスリットが設けられている。

【００７１】

この多機能寝具１０Ａにおいては、前記多機能寝具１０と同様の作用効果を奏すると共に、スリット３２が更に増えているので、手足や頭を出しやすく、より多様な方法で利用することができる。

【００７２】

図１３には、本発明に係る多機能寝具の、第３実施形態が示されている。なお、前記実施形態と実質的に同一部分には同符号を付してその説明を省略する。

【００７３】

図１３に示すように、この実施形態の多機能寝具１０Ｂは、長軸及び短軸を有する略楕円形の本体部２０を有しており、その外周の斜めに対向する位置から、本体部中央に向かって斜めに延出する一対のスリット３０，３０が、２組設けられていると共に、本体部２０の長軸方向の外周から、長軸方向に沿って伸びる一対のスリット３２，３２が設けられており、合計で６つのスリットが設けられている。

【００７４】

この実施形態の多機能寝具１０Ｂにおいては、本体部２０が楕円形をなしているので、体に巻き付けたときに、胴体部分を特に厚く巻き付けることができ、スリット３０，３２から頭や手足を出しやすくすることができる。なお、本体部２０が円形をなしている場合にも、同様の作用効果を得ることができる。

【００７５】

図１４には、本発明に係る多機能寝具の、第４実施形態が示されている。なお、前記実施形態と実質的に同一部分には同符号を付してその説明を省略する。

【００７６】

図１４に示すように、この実施形態の多機能寝具１０Ｃは、本体部２０の４つの各角部からスリット３０がそれぞれ形成され、また、本体部２０の、長辺方向に沿った両側辺の対向する位置から、一対のスリット３２，３２が、長辺に対してほぼ直角な方向にそれぞれ形成され、更に、本体部２０の、短辺方向に沿った両側辺の対向する位置から、一対のスリット３２Ａ，３２Ａが、短辺に対してほぼ直角な方向にそれぞれ形成されており、合計で１２個のスリットが設けられている。また、スリット３２Ａは、スリット３２よりも短く形成されている。

【００７７】

この多機能寝具１０Ｃにおいては、前記多機能寝具１０Ａに対して、スリット３２Ａが更に増えているので、手足や頭をより出しやすくすることができ、より一層多様な方法で利用することができるという作用効果が得られる。

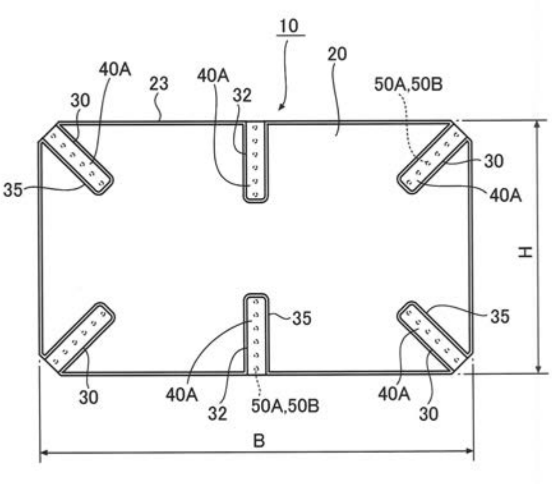
【符号の説明】

【００７８】

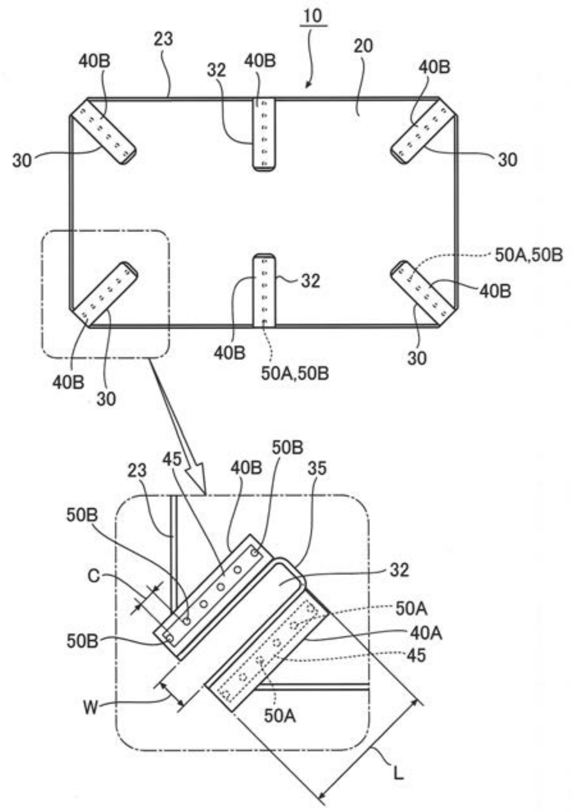
１　ソファー

１０，１０Ａ，１０Ｂ，１０Ｃ　多機能寝具
２０　本体部
２１　生地
２３　縁取り部材
３０，３２，３２Ａ　スリット
３５　縁取り部材
４０Ａ，４０Ｂ　フラップ
４５　テープ
５０Ａ　雄ホック
５０Ｂ　雌ホック

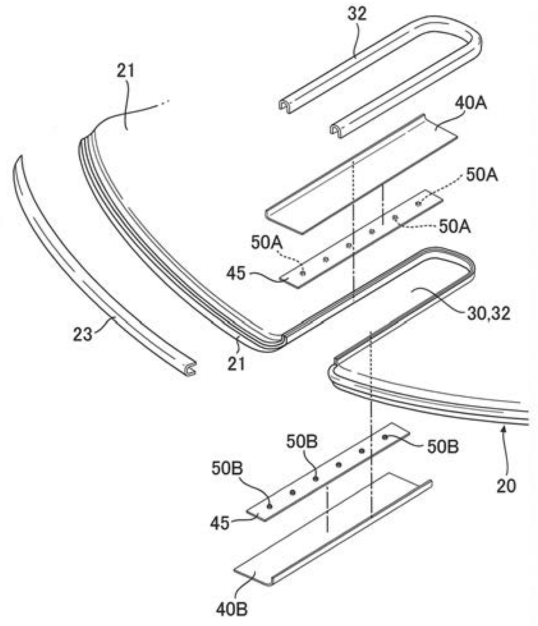
【図１】



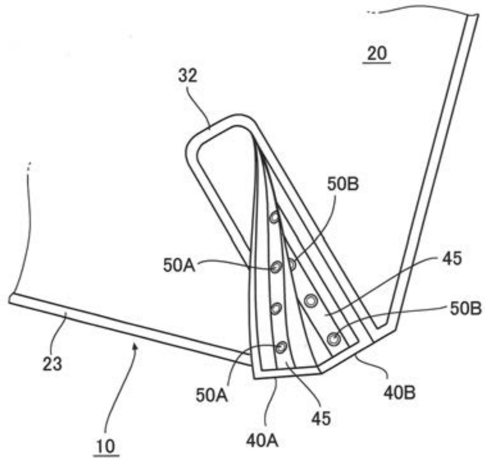
【図２】



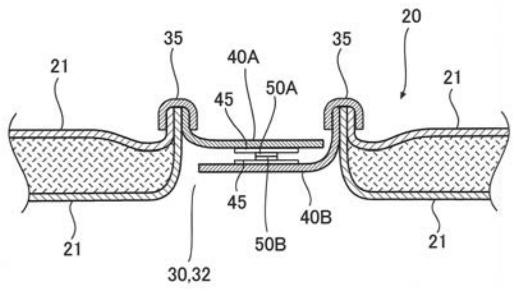
【図３】


32
21
40A
50A
50A
50A
45
30,32
23
21
50B
50B
50B
45
20
40B

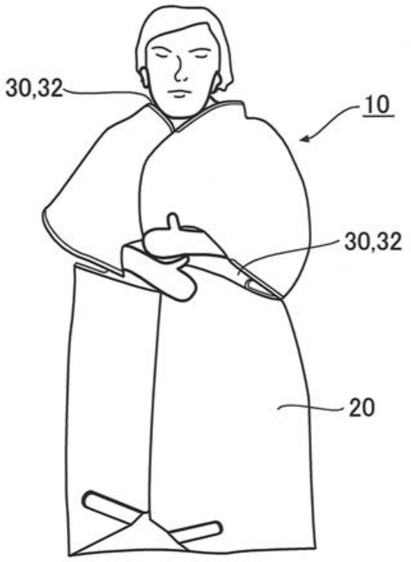
【図４】


20
32
50B
50A
45
50B
23
50A
40B
45
40A
10

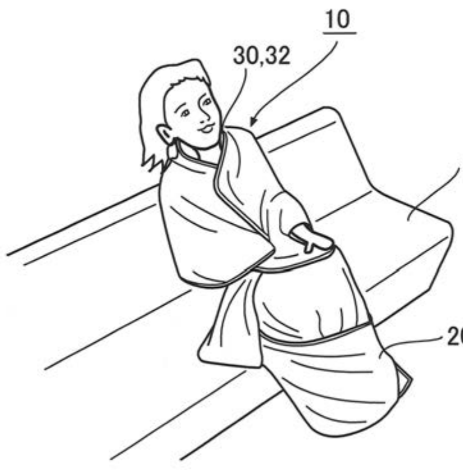
【図５】


20
35
40A
35
21
21
45
50A
45
40B
21
21
50B
30,32

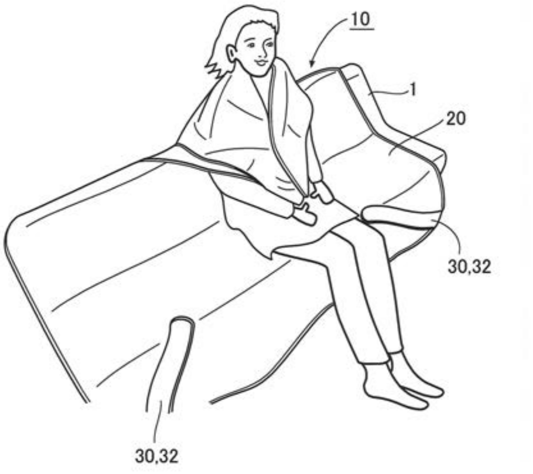
【図６】


30,32
10
30,32
20

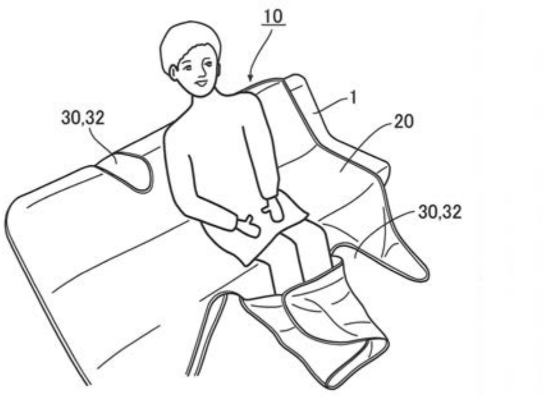
【図７】



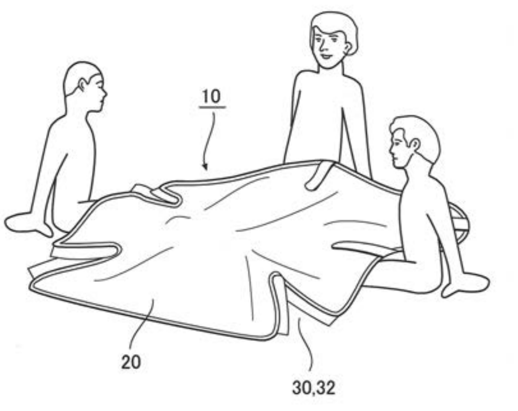
【図８】



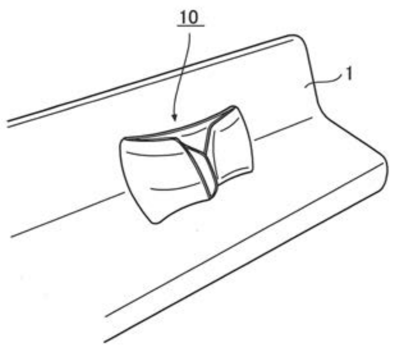
【図９】



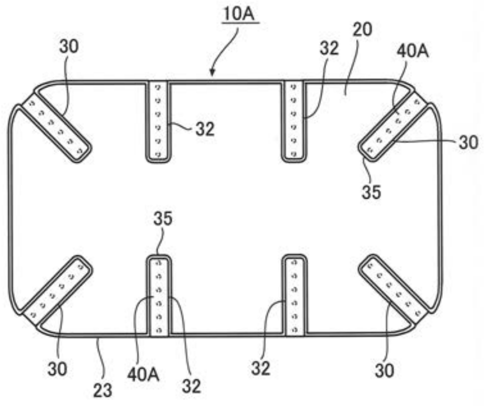
【図１０】



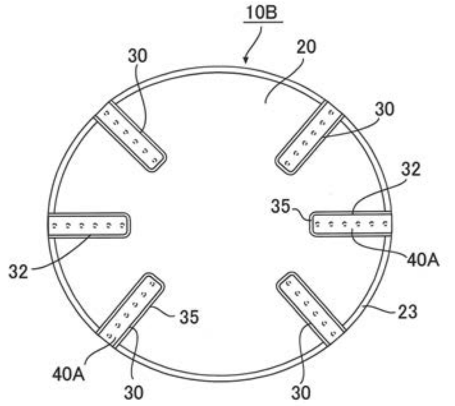
【図１１】



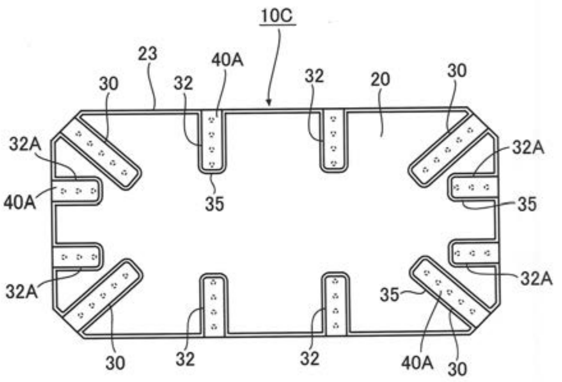
【図１２】


10A
30
32
20
40A
32
30
35
35
30
40A
32
23
32
30

【図１３】


10B
20
30
30
32
35
40A
32
35
23
40A
30
30

【図１４】


10C
23
40A
32
32
20
30
30
32A
32A
40A
35
35
32A
32A
35
30
32
32
40A
30